



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

広島県 福山市立松永中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名 : JOCオリンピック教室
- 主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援 : スポーツ庁
- 協力 : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象 : 中学2年生
- 講師 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間 : 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数 : 80校程度
- 実施方法 : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：山本 静香 先生 (バドミントン) 【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■ **期 日**：2024年2月6日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アテネ2004大会にバドミントンの女子ダブルスと混合ダブルスで出場したと自己紹介。今日の授業を通して、オリンピックをより身近に感じられるようになってほしい。オリンピックの価値は、エクセレンス、フレンドシップ、リスペクトがあると紹介。運動の時間では、その3つを体験してもらうため、自分の力を出し切ること、チーム全員で力を合わせることを守って取り組もうと伝える。その後、代表生徒と先生でラリーを行った後、チーム対抗でシャトル取りゲームを実施。

○主運動等



・主運動は「シャトル入れゲーム」を実施(全4回)。2分間で10個中何個のシャトルをカゴに入れることができるかをチーム対抗で競う。走者はカゴを持つ人の約3m手前のラインまで走り、シャトルを手で投げ入れる。カゴを持っている人は、ラインを越えない限り自由に動くことができる。成功したらスタート地点に戻り次の人と交代し、失敗したらシャトルを拾ってスタート位置まで戻る。2回目は下から投げ入れるように挑戦。3回目からはバドミントン、テニス、卓球のいずれかのラケットを使用してカゴを狙う。3つの約束事を思い出し、チームで協力して記録を更新しようと伝える。



・どのチームもシャトルを投げる高さを工夫したり、シャトルを当てやすいラケットの種類をよく考えて取り組んでいたと運動の時間を振り返る。記録を更新できなかったチームも、試行錯誤しながら一生懸命挑戦したことは素晴らしいことだと伝える。授業冒頭に伝えた3つの約束事を守ることができたか生徒に問い掛けると、全員が手を挙げる。座学の時間では、先生がオリンピックに出るまで経験してきたことをオリンピックバリューの3つの価値に当てはめて話していきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：山本 静香 先生 (バドミントン) 【出場オリンピック／アテネ2004大会】

■ **期 日**：2024年2月6日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・アテネ2004大会にバドミントンのダブルスで出場したと自己紹介。バドミントンでは一瞬も止まらずに高速なラリーを続け、攻めと守りを行うと説明し、シャトルを打つ瞬間は速い人で時速400km以上にもなると話す。小学校5年生で競技を始め、1番になりたいという強い思いから高校で強豪校に進学し、卒業後は実業団に所属しオリンピックを目指す。競技に取り組む上で、一生懸命やること、仲間と支え合うこと、練習できる環境や時間を与えてくれた会社や同僚に感謝することを大事にしてきたと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間で感じたこと、今の生活の中にあるオリンピックバリューを考えてみよう。

発表：エクセレンス：「皆で1つものを作り上げた」「全力でやった」「体を動かすことは楽しい」「1日1日努力していく」等

フレンドシップ：「仲間と協力する大切さ」「助け合う」「家族や友達が応援してくれる」「練習を考えてくれる仲間」等

リスペクト：「習い事の送迎に感謝」「褒め合う」「部活が出来る環境に感謝」「練習等で送り迎えをしてくれる家族」等



・競技人生で様々な試練があったが、1つずつ意識を変えて挑戦することで乗り越えることができた。その結果、オリンピック出場という夢を果たすことができた。スポーツでは勝ち負けや順位があるが、結果よりも目標に向かって努力する過程が大切だと学んだと話す。皆も高校受験や今後の人生で困難に直面したときは、今日学んだオリンピックバリューを思い出し、諦めずに挑戦を続けてほしい。パリ2024大会もこれまでとは違う目線で観戦し、挑戦する選手達を応援してほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■期 日：2024年2月6日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会にバスケットボールで出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「ルールを守り全力で取り組む」、フレンドシップ：「思いやりを持って声掛けをしながら協力し合う」、リスペクト：「皆でアイデアを出しチャレンジする」と紹介し、今日はこの3つを意識して取り組もうと話す。バスケットボールを使用したストレッチや、ボールハンドリング、シュート練習等を行う。シュートの仕方を披露しながら、どのように打つと入りやすいかアドバイスを送る。

○主運動等



・2人組でパス練習を実施。ボールをバウンドさせ、手を叩いてからキャッチする等、相手と息を合わせて行うパスに挑戦。
 ・主運動は「シュート競争」をチーム対抗で実施(全2回)。センターライン横側のスタート位置からドリブルでどちらかのゴールまで移動する。フリースローライン付近の青色マーカーからシュートが入れば青色マーカーを持ち帰り、ゴール付近にある赤色マーカーからシュートが入った場合、ゴール下のマーカーを取り、スタート位置に戻る。シュートが入らなかった場合は、ドリブルで戻り、次の人にボールを渡す。青色マーカーは2点、その他のマーカーは1点として獲得した総合得点を競う。



・より多くの点数を獲得するため、皆でアイデアを出し合って作戦を立てることができていた。また、大きな声で応援ができていたので、シュートを打つ人は皆のために頑張ろうという気持ちになれたと思う。結果も重要であるが、そこまでの過程で皆で協力したことや、ベストを尽くしてチャレンジした経験は、次のステップに進むために重要だということを理解できたと思う。座学の時間では、運動の時間に感じたことも踏まえ、オリンピックバリューについてより深く考えようと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2024年2月6日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



●バスケットボールでアトランタ1996大会に出場したと自己紹介。オリンピックシンボルは5大陸を表しており、旗の下地の白を合わせた6色で世界の国旗が描けると解説する。高校では親元を離れバスケットボールの強豪校に進んだが、想像以上に厳しい世界だった。応援してくれる家族のためにも、自分で決めた道を諦めないという覚悟を決め、仲間と支え合いながら努力を続けた。自分の弱い部分や失敗したことから逃げずに向き合ってきたことで、自分に自信が付き、オリンピック出場につながったと話す。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたこと、部活動や日常生活をより良くするためにはどのような取り組みが必要か、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。

発表：エクセレンス：「全力で諦めない」「恐れずにチャレンジ」「挑戦と継続」「できなかったことを理解し練習」等
 フレンドシップ：「一致団結」「仲良く頑張る」「気合を入れて声掛け」「相手のことを考える」「コミュニケーション」等
 リスペクト：「スポーツマンシップ」「相手に敬意」「マナーやルールを守る」「自分や相手の意思を尊重」「道具を大切に」等



●今日の授業を通して、オリンピックバリューは皆の日常生活にも存在していることが分かったと思う。3つの価値を意識して物事に取り組むことで、良い方向に変えていくことができる。何事も全力でやるのが大切であり、失敗を恐れずにチャレンジすることで、次のステージにつながっていく。今後の人生で失敗することがあっても、気持ちを切り替えてピンチをどのようにチャンスに変えるか考えてみよう。素敵な仲間と支え合いながら前進していってほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■期 日：2024年2月6日(火)

■ク ラ ス：2年3組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会に出場したと自己紹介。オリンピックは競い合うための大会だけではなく、オリンピズムやオリンピックバリューという考え方を発信すると説明。運動の時間では、「ルールを守りどのようなことにも全力で挑む」「友達と声を掛け合って協力し、思いやりを持つ」「皆でアイデアを出し合い、工夫してチャレンジする」の3つを守って取り組もうと伝える。バスケットボールを使用し、ドリブル、ボールハンドリング、シュート、パス練習等を実施。

○主運動等



・主運動は「シュート競争」をチーム対抗で実施(全2回)。センターライン横側のスタート位置からドリブルでどちらかのゴールまで移動する。フリースローライン付近の青色マーカーからシュートが入れば青色マーカーを持ち帰り、ゴール付近にある赤色マーカーからシュートが入った場合、ゴール下のマーカーを取り、スタート位置に戻る。シュートが入らなかった場合は、ドリブルで戻り、次の人にボールを渡す。青色マーカーは2点、その他のマーカーは1点として獲得した総合得点を競う。



・1回目より良い結果を出すためにそれぞれアイデアを共有し、皆で作戦を考えて2回目に挑んだからこそ、全ての班が1回目よりも良い結果になったことを称えた。チームメイトにプレッシャーをかけるのではなく、より自信を持って行動できるような声を掛けることで、チームの士気を上げることができる。座学の時間では、運動の時間に感じたことや頑張ったことをオリンピックバリューに当てはめて深く考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：村上 睦子 先生 (バスケットボール) 【出場オリンピック／アトランタ1996大会】

■ **期 日**：2024年2月6日(火)

■ **ク ラ ス**：2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・アトランタ1996大会にバスケットボールで出場したと自己紹介。フランスの教育学者であったピエール・ド・クーベルタンは、スポーツを通じて心と体を鍛え、世界が交流することでよりよい世界の実現につながると考え、近代オリンピックを創設。この考え方をオリビズムという説明。3つのオリンピックバリューを皆により身近な言葉で表すと、エクセレンス：「より優れていること」「素晴らしい」、フレンドシップ：「チームワーク」「協力すること」、リスペクト：「尊敬」「感謝」等があると解説する。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたこと、部活動や勉強など、日々の生活をより良くするためには、何が必要かオリンピックバリューに当てはめて考えよう。

発表：エクセレンス：「何事にも挑戦」「毎日練習する」「目標に向かって頑張る」「前の自分よりも成長するための努力」等

フレンドシップ：「声掛け」「励まし合いながらプレーをする」「助け合って高め合う」「相手のことを考える」等

リスペクト：「両親への感謝」「友達がいることに感謝」「目標になる人を探して頑張る」「マナーを守る」「日常に感謝」等



・先生は大好きなバスケットボールを一生懸命取り組み、その努力の結果、夢を叶えることができた。辛い時も諦めずに続けた経験は、自分の誇りとなった。皆も今後の人生で様々な選択をする場面があると思うが、頑張りたいと思うことを見つけたら、自らの限界値を決めずに前向きに挑戦してほしい。運動の時間で、皆でより良い結果を出そうと目指した経験と同じ様に、日常生活の中でもオリンピックバリューを意識し、仲間と助け合いながらより充実した日々を送ってほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



■記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



・2年3組



■修了証贈呈

